

## トピックス

## 長崎から2つの世界遺産を

## 1 世界遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」



「明治日本の産業革命遺産」は、幕末からわずか半世紀の間に、造船、製鉄・鉄鋼、石炭産業といった重工業分野において急速な産業化を成し遂げ、西洋地域以外で最初に産業国家へと至る道のりを示す遺産群です。構成資産は8県11市に所在し、長崎県には造船、石炭産業に関する8つの資産があります。

2014年1月に国からユネスコへ推薦書が提出され、2015年5月にはイコモス(国際記念物遺跡会議)から世界遺産一覧表への「記載」勧告がなされ、2015年7月に世界遺産に登録が決定されました。

長崎県世界遺産登録推進課

検索

## 2 長崎の教会群とキリスト教関連遺産



長崎の教会群を世界遺産へ



旧野首教会堂 (小値賀町)

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は、長崎地方におけるキリスト教の伝来と繁栄、激しい弾圧と250年もの潜伏、そして奇跡の復活、という世界に類を見ない伝播と浸透のプロセスを物語る資産です。長崎県及び熊本県天草市に所在する「城跡」、「集落」、「教会建築」の14資産で構成されています。

2016年の世界遺産登録をめざし、2015年1月に国からユネスコへ推薦書が提出されましたが、ユネスコの諮問機関である国際記念物遺跡会議(イコモス)の中間報告において、「長崎の教会群」の世界遺産としての価値を、「禁教・潜伏期」に焦点をあてた内容に見直すべきであるとの評価が示されました。

その後、2016年2月9日の閣議了解を経て、やむを得ず推薦が取り下げられたところですが、2018年の登録に向けて全力で取り組んでいます。

長崎県世界遺産登録推進課

検索